

物品管理がうまくいく 会社の共通点



はじめに

企業には固定資産をはじめ、IT資産・リース物品・外部からの預かり品など管理すべき多くの物品があります。これらは会計的な側面だけでなく、**情報セキュリティの面**からも管理を行う必要があります。

また、近年では「働き方改革」をきっかけに、業務改善・業務効率化という面から物品管理を見直す企業も増えてきています。

しかし、物品管理の必要性を感じる一方で、「**物品管理をどのように始めたらいいのか分からない**」「**物品管理改善の取り組みが進まない**」といったお悩みを持たれている担当者様は多いのではないでしょうか。

そこで本資料では、物品管理がうまくいかない要因をお伝えし、倣うことができる「**物品管理がうまくいっている会社の共通点**」をご紹介します。

1

物品管理がうまくいかない、
その要因とは？

物品管理がうまくいかない、その要因とは？

物品管理へのモチベーションや意識が低い

全社員に管理意識が浸透していないと、勝手な物品購入・処分が起こってしまうケースもあります。

「社内の物品は会社のお金で購入した大切な物」＝「きちんと管理する必要がある」という意識づけをしていくことが大切です。

ルールや仕組みの形骸化

「管理ラベルを貼付するルールはあるが徹底されていない」「管理ラベルは貼付されているが活用されていない」など、**ルールや仕組みはあっても活用されていない**というケースもあります。

ルールがきちんと守られているか、ルールが現状に即しているかを見直しましょう。

3

物品管理が業務として認識されていない

物品管理が業務として認識されていない＝管理の手順やフローが確立されていないと言えます。

手順がきちんと決められていないと、業務を行う人やその都度でやり方が変わってしまい、正しい物品情報の把握が難しくなります。

精度の高い物品管理を実現するためには、**誰が、どのタイミングで、どのような作業を行うのか**を明確にする必要があります。

管理作業が煩雑

手入力や目視確認などの手間・時間がかかる作業が含まれている場合は、**他の方法(自動認識技術を活用するなど)**で置き換えられないか検討してみましょう。

また、「管理のための管理になっている」「台帳の二重管理が発生している」など、無駄な作業がないか見直してみるのも良いかもしれません。

2

物品管理がうまくいく
会社の共通点とは？

スモールスタートで成功事例をつくっている

POINT



管理対象・組織を絞って「スモールスタート」

「事業所・部署が多い」「物品数が多い」などの場合、一度にすべての物品、すべての管理業務を改善しようとすると、新しい管理方法の周知・定着がスムーズに進まず失敗してしまうケースがあります。

そのため、まずは**管理対象や組織を絞ってスタート**することがおすすめです。物品種別・金額・管理部署・設置エリアなどを基準に管理対象を限定し、**運用が軌道に乗ったら管理対象を広げていきましょう。**

運用例

1. 管理対象を絞る

- 固定資産に該当するものから管理をスタート。台帳整備～棚卸しまで実施。
(軌道に乗ったら少額備品やリース物品も含めて管理する)

2. 対象部署を絞る

- 通信機器の持出しが多い営業部で貸出し管理をスタート
(機器の持出し返却の流れが確立されたら他部署にも展開)



2 管理するメリットを体感してもらっている



POINT
管理するメリットを理解すれば、管理意識が高まりルールが形骸化しにくくなる

物品管理のルールを決めても、実際に守られなければ意味がありません。
これから物品管理を始める場合、「台帳への物品情報の登録」や「管理ラベルの発行」など、これまでなかった作業が発生することもあります。

その際に、

それぞれの管理業務は何のために行われているのか

その作業があることでどのようなメリットがあるのか

を社員に理解・体感してもらう機会を設けていると、運用がスムーズに進みやすいようです。



現場の負担を増やさない方法を取り入れている



業務分担や自動認識の技術の活用で現場の負担を増やさない工夫をする

管理の精度を高めようとするあまり、「**管理のための管理**」になってしまったというケースも多く聞かれます。

物品管理の改善を成功させている会社では、**改善を取り組む前にしっかりと現在の業務を洗い出し、現場の負担を増やさない方法**を取り入れています。

運用例

現物管理台帳の更新が大変で、抜け・漏れが発生している…

総務部で実施している棚卸しに手間がかかるて大変…

貸出し情報を記録せずに持出されてしまう…

固定資産管理台帳と連携することで二重管理を防止。抜け・漏れが減って管理も楽になった。

棚卸しにスマートフォンを活用して、各拠点にいる社員が各自で棚卸しできるようになった。

バーコードを読み取るだけで持出し管理ができる仕組みを構築。誰がどの物品を持ち出しているかが一目でわかるようになった。

3

物品管理システムを活用する

物品管理システムを活用する

物品管理がうまくいくポイントとして、「**業務分担や自動認識の技術の活用で現場の負担を増やさない工夫をする**」ことについてお伝えしました。

工夫するうえでおすすめなのが、物品管理システムの導入です。**物品情報を一元化して属人化を防ぎつつ、QRコードやICタグといった自動認識の技術を活用**した物品管理を行うことができます。

弊社が開発・提供する物品管理システム「Convi.BASE(コンビベース)」を導入されたお客さまでは、さまざまな導入効果を得られています。

“

固定資産の新規登録で72%、
バーコードスキャンの棚卸しで
75%の工数削減ができました！

”

“

保守期限や物品返却期限などのアラートメールで作業忘れ防止にも役立っています！

”

“

物品の写真を登録することで、初めて棚卸しする人でも対応できるようになりました！

”

物品管理の『面倒』をすべて解決「Convi.BASE」

「Convi.BASE(コンビベース)」は物品の現物管理に特化したクラウドサービスです。
柔軟な台帳機能と、現物管理に必要な機能で現物管理を正確かつ効率的に行えます。

クラウド台帳で物品情報を一元管理

管理項目を自由に設定できるため、今の運用を大きく変えずにシステム化できます。

固定資産・IT機器・鍵・金型…その他様々な物品の管理に活用いただけます。

棚卸し・貸出し・入出庫などあらゆる物品管理に対応

スマートフォンでQRコードやICタグを読み取る棚卸しや貸出しなどに対応。誰でも簡単に効率よく作業できます。

手厚いサポートで運用も安心

コンビベースの操作方法やトラブルなどのお問い合わせは、ヘルプセンター(電話・メール・Webフォーム)で対応いたします。

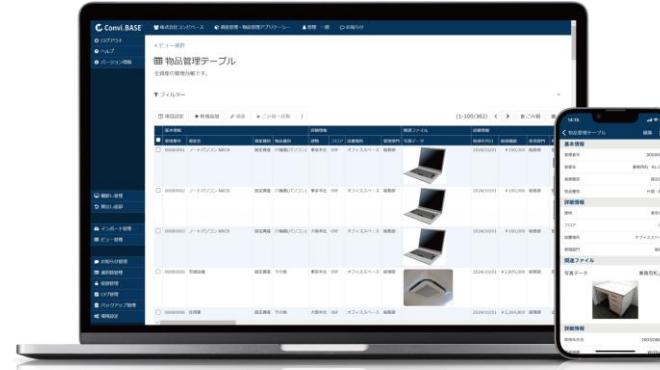
アウトソーシング・コンサルティングサービスもご用意

実績豊富な専任チームが業務フロー策定・マニュアル作成・資産調査・ラベル貼付・棚卸し代行を行います。

※グループ会社の株式会社ネットレックス・フィールドサービスが対応

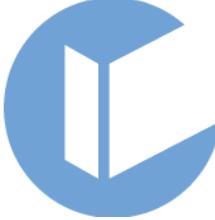
物品管理クラウドサービス「コンビベース」の資料のご案内のか、
資産調査・ラベル発行・棚卸し代行などのアウトソーシングサービス、
運用マニュアル作成・業務フロー策定などのコンサルティングサービ
スについてもお気軽にご相談いただけます。

「こんな運用できる？」など、物品管理システムに興味をお持ちの
方は、お気軽にお問合せください！



資料を請求する / オンライン無料デモに申し込む

- ❖ 何ができるのか概要を聞きたい
- ❖ 導入事例・運用事例を聞きたい
- ❖ 機能や費用について質問したい
- ❖ 物品管理の始め方を相談したい
- ❖ 自社の運用に合うか確認したい
- ❖ ラベル発行・貼付代行について聞きたい



Convi.BASE

お問い合わせ

株式会社コンビベース
営業部 マーケティンググループ



03-5643-6743



cb-info@convibase.co.jp